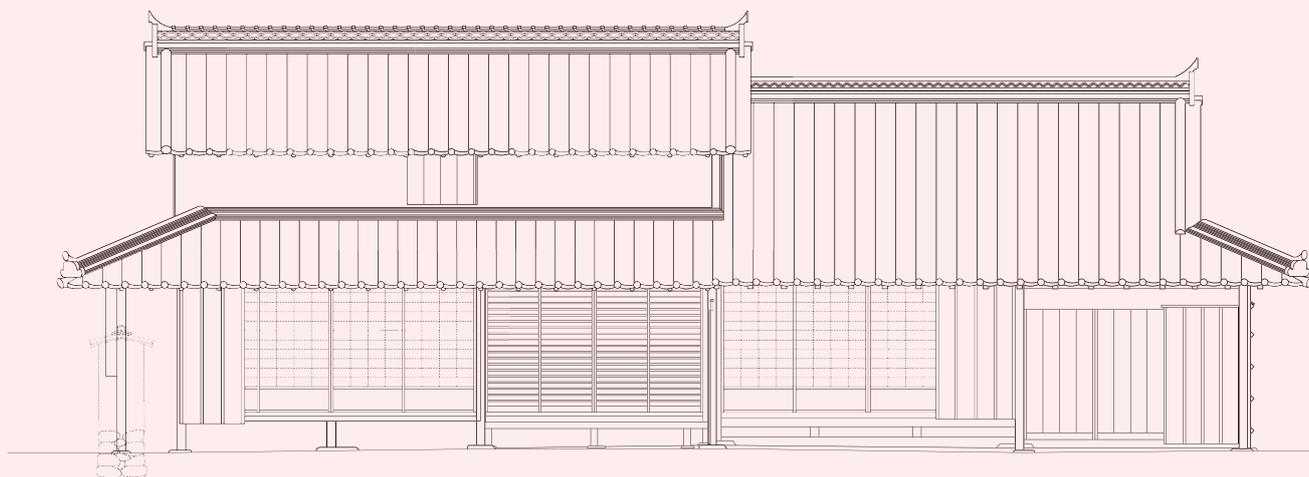




公益財団法人
和歌山県文化財センター年報

埋蔵文化財発掘調査と文化財建造物保存修理の記録

2018





1 和歌山城跡の発掘調査 江戸時代瓦積み井戸（南から）



2 新宮城下町遺跡の第2次発掘調査 石組みの地下式倉庫（北から）

巻頭写真 2



3 那智山青岸渡寺本堂 竣工



4 上岩出神社本殿 竣工

目次

平成 30（2018）年度 受託業務一覧 …………… 2

平成 30（2018）年度 受託業務所在地図 …………… 3

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援等

田屋遺跡の第 3 次発掘調査 ……………	4
和歌山城跡の発掘調査……………	5
和田岩坪遺跡の発掘調査……………	6
吉礼Ⅲ遺跡の発掘調査及び出土遺物等整理……………	7
藤並地区遺跡の第 3 次発掘調査及び 出土遺物等整理……………	7
新宮城下町遺跡の第 2 次発掘調査……………	8
道湯川集落跡（仮称）の発掘調査等……………	10
根来寺遺跡の発掘調査支援……………	10
岡田Ⅱ遺跡の発掘調査等支援……………	11
竜松山城跡、坂本付城跡の発掘調査等支援……………	11
青木Ⅰ遺跡、湯浅城跡の発掘調査支援……………	12
川辺遺跡、東城跡の出土遺物等整理……………	13
安宅本城跡の出土遺物整理支援……………	13

文化財建造物の保存修理技術指導

重要文化財 旧西村家住宅主屋 ほか 2 棟の保存修理……………	14
重要文化財 旧名手本陣妹背家住宅 主屋及び米蔵の保存修理……………	15
国史跡 旧名手宿本陣整備事業名手役所 主屋及び離れ・蔵復旧整備実施設計……………	16
重要文化財 那智山青岸渡寺本堂の保存修理……………	17
県指定文化財 地藏堂の保存修理……………	18
県指定文化財 護国院開山堂ほか 4 棟 保存修理に伴う基本設計業務……………	19
景観重要建造物 大福院本堂の保存修理……………	20
県指定文化財 上岩出神社本殿の保存修理……………	21
県指定名勝 藤崎弁天弁天堂建造物調査業務……………	21
熊野那智大社境内施設整備事業技術支援 熊野那智大社拝殿の保存修理……………	22

関連研究・資料紹介

新宮城下町遺跡出土の渥美壺及び瀬戸燭台……………23

和歌山市井辺遺跡出土の土製支脚……………24

普及活動

平成 30（2018）年度の普及啓発事業 ……………25

センター概要

平成 30（2018）年度概要 ……………29

巻頭写真

- | | |
|---------------------------------------|----------------|
| 1 和歌山城跡の発掘調査 江戸時代瓦積み井戸（南から） | 3 那智山青岸渡寺本堂 竣工 |
| 2 新宮城下町遺跡の第 2 次発掘調査
石組みの地下式倉庫（北から） | 4 上岩出神社本殿 竣工 |

例言

- 1 本書は、公益財団法人和歌山県文化財センターが平成 30 年度受託業務として行った埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援業務、文化財建造物の保存修理技術指導業務、および普及活動の成果をまとめたものである。
- 2 掲載写真・図面は、基本的に調査および整理中に撮影・作成したものであり、出典が異なる場合は個別に記した。また、本文中の所見は、調査・整理事業中のものであり、今後の作業の進展により変更する可能性がある。
- 3 原稿執筆は職員が分担して行い、文末に執筆者名を記した。編集・組版は、多井忠嗣・濱崎範子が担当した。

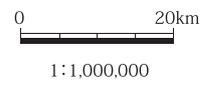
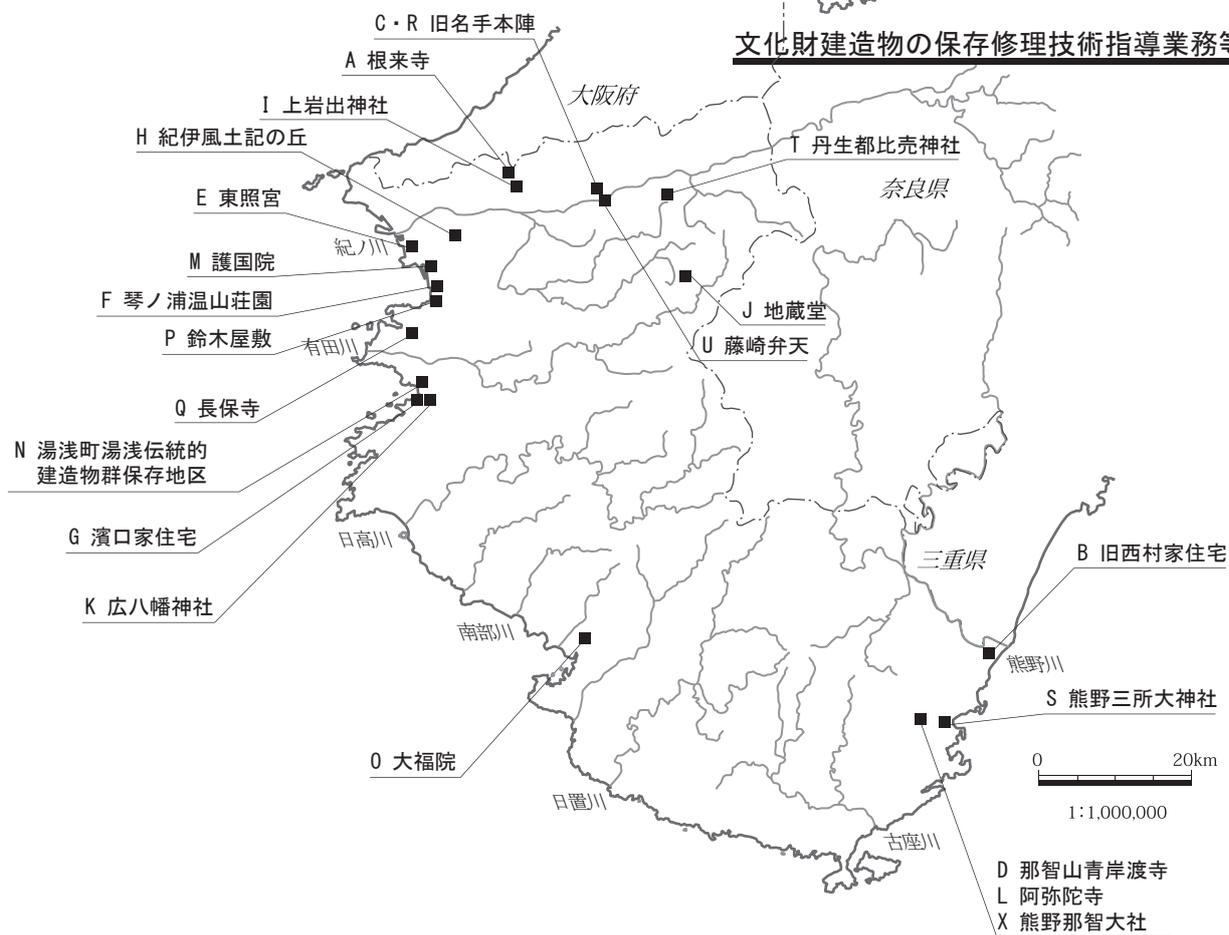
平成 30（2018）年度 公益財団法人和歌山県文化財センター受託業務一覧

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理・支援等業務					
	受託業務の名称	所在地	契約期間	調査面積	委託機関等
1	県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う田屋遺跡第3次発掘調査業務	和歌山市田屋	2018.12.05～ 2019.03.22	786.6㎡	和歌山県
2	県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う田屋遺跡第4次発掘調査業務	和歌山市田屋	2019.03.12～ 2019.07.31	1,035.1㎡	和歌山県
3	和歌山県立医科大学薬学部新築に伴う和歌山城跡発掘調査業務	和歌山市七番丁、 九番丁	2017.09.23～ 2019.03.29	4,284㎡	和歌山県
4	和歌山橋本線道路改良工事に伴う吉礼Ⅲ遺跡発掘調査業務	和歌山市吉礼	2018.01.18～ 2018.11.30	309.96㎡	和歌山県
5	和歌山平野農地防災事業名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡発掘調査業務	和歌山市和田	2018.09.20～ 2019.03.15	921㎡	近畿農政局
6	一般国道42号(湯浅御坊道路)4車線化事業に伴う藤並地区遺跡(第3次)発掘調査及び出土遺物等整理業務	有田郡有田川町水尻	2018.05.01～ 2019.03.31	261.2㎡	西日本高速道路株式会社
7	熊野古道見どころ整備事業に伴う道湯川集落跡(仮称)発掘調査等業務	田辺市中辺路町 道湯川	2018.09.13～ 2019.03.31	108㎡	和歌山県
8	新宮市文化複合施設建設に伴う新宮城下町遺跡第2次発掘調査業務	新宮市下本町	2018.03.06～ 2019.03.31	3,461㎡	新宮市
9	旧県会議事堂整備事業に伴う根来寺遺跡発掘調査支援業務	岩出市根来	2018.06.19～ 2019.03.28	116㎡	和歌山県
10	紀の川市内遺跡発掘調査等支援業務	紀の川市下井坂	2018.08.01～ 2018.09.30	186㎡	紀の川市
11	湯浅町内遺跡発掘調査等支援業務	有田郡湯浅町青木	2018.06.25～ 2019.03.31	166.6㎡	湯浅町
12	亀松山城跡、坂本付城跡発掘調査等支援業務	西牟婁郡上富田町 市ノ瀬	2018.11.01～ 2019.02.28	—	上富田町
13	都市計画道路西脇山口線道路建設事業に伴う川辺遺跡、東城跡出土遺物等整理業務	和歌山市山口西、 楠本	2018.05.02～ 2019.03.31	—	和歌山県
14	安宅本城跡整理支援業務	西牟婁郡白浜町安宅	2018.12.25～ 2019.03.25	—	白浜町
文化財建造物の保存修理技術指導業務等					
	受託業務の名称	所在地	実施期間	棟数	委託機関等
A	国宝 根来寺多宝塔(大塔)保存修理事業(災害復旧・一般)技術指導	岩出市根来	2019.02.15～ 2019.09.30	1棟	宗教法人 新義真言宗総本山根来寺
B	重要文化財 旧西村家住宅主屋ほか2棟保存修理事業設計監理	新宮市新宮	2018.04.01～ 2019.03.31	3棟	新宮市
C	重要文化財 旧名手陣妹背家住宅主屋及び米蔵保存修理実施設計監理	紀の川市名手市場	2018.04.03～ 2019.12.31	2棟	紀の川市
D	重要文化財 那智山青岸渡寺本堂保存修理事業(災害復旧)技術指導	東牟婁郡那智勝浦町 那智山	2018.02.06～ 2018.12.31	1棟	宗教法人 那智山青岸渡寺
E	重要文化財 東照宮本殿・石の間・拝殿及び唐門保存修理事業(災害復旧・一般)技術指導	和歌山市和歌浦西	2019.02.15～ 2020.03.31	2棟	宗教法人 東照宮
F	重要文化財 琴ノ浦温山荘浜座敷ほか3棟保存修理(災害復旧)技術指導	海南市船尾	2019.02.15～ 2019.06.30	4棟	公益財団法人 琴ノ浦温山荘園
G	重要文化財 濱口家住宅南米蔵ほか5棟保存修理(災害復旧)技術指導	有田郡広川町南市場	2019.02.15～ 2020.03.31	6棟	東演植林株式会社
H	重要文化財 紀伊風土記の丘重要文化財民家等保存修繕設計監理技術指導(旧谷山家住宅・旧柳川家住宅)	和歌山市岩橋	2019.02.02～ 2019.03.31	2棟	和歌山県
I	県指定文化財 上岩出神社本殿保存修理技術指導	岩出市北大池	2018.04.01～ 2018.08.31	1棟	宗教法人 上岩出神社
J	県指定文化財 地蔵堂保存修理技術指導	伊都郡かつらぎ町 花園北寺	2018.04.01～ 2019.03.31	1棟	北寺区
K	県指定文化財 広八幡神社舞殿保存修理(災害復旧)技術指導	有田郡広川町上中野	2018.09.18～ 2019.03.31	1棟	宗教法人 広八幡神社
L	県指定文化財 阿弥陀寺大師堂保存修理基本設計	東牟婁郡那智勝浦町 南平野	2018.10.10～ 2019.03.31	1棟	宗教法人 妙法山 阿弥陀寺
M	県指定文化財 護国院開山堂ほか4棟保存修理基本設計	和歌山市紀三井寺	2018.11.13～ 2019.03.31	5棟	宗教法人 護国院
N	重要伝統的建造物群保存地区 湯浅伝建地区保存修理技術指導等	有田郡湯浅町湯浅	2018.04.06～ 2019.03.24	—	湯浅町
O	景観重要建造物 大福院保存修理実施設計・施工監理	田辺市湊	2018.07.17～ 2019.03.31	1棟	田辺市景観まちづくり 刷新協議会
P	史跡 熊野参詣路紀伊路歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業(鈴木屋敷)技術支援	海南市藤白	2018.04.06～ 2019.03.31	1棟	宗教法人 藤白神社
Q	史跡 和歌山藩主徳川家墓所 歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業(阿弥陀堂・鐘楼)技術支援	海南市下津町上	2018.09.27～ 2019.03.31	2棟	宗教法人 長保寺
R	史跡 旧名手宿本陣整備事業名手役所主屋及び離れ・蔵復旧整備実施設計	紀の川市名手市場	2018.11.02～ 2019.03.31	3棟	紀の川市
S	史跡 熊野参詣路歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業技術支援(熊野三所大神社)	東牟婁郡那智勝浦町 浜の宮	2018.11.21～ 2019.03.31	1棟	宗教法人 熊野三所大神社
T	史跡 丹生都比売神社鏡池・東池浚渫工事等に関する技術支援	伊都郡かつらぎ町 天野	2019.01.07～ 2019.03.31	2面	宗教法人 丹生都比売神社
U	県指定名勝 藤崎弁天堂建造物調査	紀の川市藤崎	2018.05.31～ 2019.03.31	1棟	紀の川市
X	未指定 熊野那智大社境内施設整備事業技術支援	東牟婁郡那智勝浦町 那智山	2018.04.01～ 2019.03.31	9棟、2基	宗教法人 熊野那智大社

**埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理
・支援等業務**



文化財建造物の保存修理技術指導業務等



田屋遺跡の第3次発掘調査

遺跡の時代：弥生時代～平安時代

所在地：和歌山市田屋

調査の原因：県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業

調査期間：2019.01～2019.02

調査コード：18-01・093

はじめに

田屋遺跡は、紀ノ川北岸の和歌山市田屋・小豆島周辺に広がる、主に弥生時代～古墳時代の集落遺跡である。当文化財センターは和歌山県の委託を受け、県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う田屋遺跡の発掘調査を平成27年度より行っており、今回が第3次調査にあたる。第3次調査の調査位置は、平成29年度に行った第2次調査2-1区の北側であり、調査面積は786.6㎡である。

調査の成果

第3次調査では、調査区を南北に分け、北側を3-1区、南側を3-2区としてそれぞれ調査を行った。

3-1区では、溝7条、掘立柱建物1棟、方形竪穴状遺構1棟などを検出した。うち3-1区北側で検出した溝は、幅3m・残存する深さ約1.7mを測る。この溝からは須恵器蓋・壺・甕や土師器の移動式カマドなどが出土した。また、この溝は、調査区北部を流れる現在の六箇井用水とほぼ平行している。3-1区西部で検出した方形竪穴状遺構では、焼土や溶けた土器片が集中した箇所が2箇所あり、この2箇所から土師器片・



3-1区全景（東から）写真右側が現在の六箇井用水



方形竪穴状遺構と掘立柱建物（南から）

須恵器片が出土した。方形竪穴状遺構の南で検出した掘立柱建物は先述した溝とほぼ並行な東西方向に主軸を持つ1間×2間の建物で、一部が重複しているが方形竪穴状遺構より後出する。

3-2区では、溝6条、土坑5基などを検出した。検出した溝6条は調査区のほぼ東から西に延びており、重複関係から、溝が繰り返し掘削されたことや溝の大まかな形成順が窺える。3-2区で検出された溝で最も新しいとみられるものからは、8世紀の須恵器蓋・杯、土師器鍋の把手などが出土した。

まとめ

第3次調査では、主に7世紀末～8世紀の遺構を検出した。今回の調査成果は、奈良時代～平安時代における田屋遺跡北東部の様相を知る手がかりとなる。中でも3-1区北側で見つかった溝は、幅・残存する深さから当時の主要な幹線水路であった可能性が考えられる。さらにこの溝が現在の六箇井用水に近接して平行することから、六箇井用水の原形であった可能性がある。溝の存続期間が短く、出土遺物および周辺地を含めた検討が必要であるが、今まで明らかになっていなかった六箇井用水の成立時期が奈良時代に遡る可能性があり、貴重な成果を得たと言える。（森田 真由香）



3-2区全景（真上から）

和歌山城跡の発掘調査

遺跡の時代：弥生時代～江戸時代
所在地：和歌山市七番丁、九番丁
調査の原因：和歌山県立医科大学薬学部新築
調査期間：2017.09～2019.03
調査コード：17-01・375

はじめに

和歌山城跡は和歌山市の中心地に位置し、独立丘陵の岡山（虎伏山）を中心に築かれた平山城である。調査地は、内堀を挟み城の北側に位置する三の丸の一角で、周辺には付家老をはじめとして紀州徳川家の重臣の屋敷地が集中している。なお、和歌山城は江戸時代初期には浅野家が城主で、16世紀末頃の織豊期には桑山家が城代を務めていた。

発掘調査は前年度から継続しており、調査面積は約4,200㎡を測る。調査地は北敷地と南敷地に分かれ、南敷地が1区と2区、北敷地が3区と4区となり、前年度に1区と3区の調査を途中まで実施していた。今年度は、1区と3区の下位面の調査と2区・4区の調査を行っている。

調査の成果

調査区付近の標高は約5mで、地表から約4m余り下まで掘り下げて調査した。基本的な層序は、上位層に江戸時代以降現在の地表まで約2mにわたる整地が繰り返し行われており、その下層には自然（風成）堆積した砂層があり、その砂層の下位に織豊期の遺構面



江戸時代の大型半地下式竈

がある。織豊期の遺構面の下位には中世の畠や水田の耕作面が確認でき、さらに下位には古代以前の遺構面が存在する。

江戸時代の遺構は、浅野家・紀州徳川家の家臣の屋敷地に伴うもので、礎石建物や土堀基礎・石積み排水溝・井戸・塵芥処理穴（ごみ穴）・埋桶・溜桝・半地下式倉庫・蹲踞（つくばい）・竈（かまど）などを検出している。竈のなかには大型で半地下式構造のものが確認されている。これは直径約0.85m、深さ約0.7mの竈を2基併設したもので、大釜を使った作業がおこなわれていたことが想像できる。江戸時代の遺物には、多量の国産陶磁器や銭貨・鉄製品・木製品などがある。

織豊期の遺構には、大溝・井戸・土坑のほか畠の畝などがある。遺物には備前焼・瀬戸焼のほかに中国製の白磁や染付などがあり、桑山期の和歌山城下町に関わる遺構や遺物の可能性がある。大溝は、各調査区を縦断するように北北西―南南東方向に延びる。大溝を境に東側に遺構・遺物が集中することからも織豊期の城下町の内外を区画する堀であった可能性がある。

中世以前では、井戸のほかに畠の畝や鋤溝・畦畔・水路と考えられる溝などを検出しており、調査区付近は生産域であったと考えられる。ただ、瓦器・黒色土器・土師器・須恵器などが出土しており、井戸の存在からも直近に集落が存在していた可能性が考えられる。この時期の遺物のなかで特筆できるものとして古代の蓮華文軒丸瓦があり、付近に文献などには登場しない寺あるいは官衙（役所）が存在した可能性がある。

調査によって、江戸時代の武家屋敷内の様子や生活の内容を垣間見ることができる資料を得ることができた。同時に、江戸時代以前の当地域の土地活用の変遷を知り得たことは大きな成果と言える。（川崎 雅史）



古代の瓦（左：蓮華文軒丸瓦、右：平瓦）

和田岩坪遺跡の発掘調査

遺跡の時代：弥生時代・古墳時代・鎌倉時代
所在地：和歌山市和田
調査の原因：名草排水機場建設工事
調査期間：2018.10～2019.03
調査コード：18-01・302

はじめに

当文化財センターでは、近畿農政局和歌山平野農地防災事業所から委託を受けて、名草排水機場建設工事に先立ち、和田岩坪遺跡の発掘調査を実施した。

和田岩坪遺跡は、和歌山市和田に所在し、和歌山平野の南東部の和田川沿いに位置する。調査地の南側約600 mには、神武天皇の長兄「五瀬命」を祭神とする竈山神社が鎮座している。この和歌山平野の南東部には、井辺遺跡、神前遺跡、和田遺跡、和田II遺跡、和田岩坪遺跡、坂田遺跡など多くの遺跡が存在する。

和田岩坪遺跡の調査は、昭和31年の名草川改修に伴う発見に端を発し、昭和56年の駐車場用地造成に伴う和歌山市教育委員会による小規模な調査がある。

調査の成果

今回の調査では、調査地を東西に分割して行い、西側の調査地から古墳時代前期から古墳時代後期にかけて埋まった自然流路(川)を発見し、大量の遺物が出土した。また、東側の調査地からは、弥生時代前期の土坑や鎌倉時代の屋敷地に伴う遺構が見つかった。



遺跡位置図 (S=1:70,000)

西側の調査地

古墳時代前期から後期にかけて埋まった自然流路(川)は、調査地の南側から北方向に延び、幅員約18 m以上、深さ約1 mの規模のものである。自然流路(川)の南側範囲では、東西方向の籐(しがらみ)状の木杭列を2列検出した。自然流路(川)の堆積層からは、弥生時代終末期から古墳時代後期にかけての大量の土器・石器・木質遺物などが出土した。

また、古墳時代に埋まった自然流路(川)の下層には弥生時代前期から中期の遺物が出土する自然流路(川)の一部を確認している。

東側の調査地

西側の調査地に次いで東側の調査地に入る段階では、西側の自然流路(川)に埋積した弥生時代から古墳時代の遺物に対応する段階の遺構・遺物が数多く存在するのではと予測していたが、予測に反して弥生・古墳時代に関するものは僅かしか見つからない。

東側の調査地からは、弥生時代前期の墓の可能性のある土坑や溝、古墳時代と考えられる土坑、鎌倉時代の屋敷地を区画する堀、土器等の廃棄土坑、溜桝、焼土で埋まった土坑、建物の柱を建てていた柱穴などが見つかった。

また、西側の自然流路(川)が東側と同じような平坦地になるのが鎌倉時代に入ってからであることも判明してきた。このことは、文献史料等から指摘されている当地域一帯の土地開発の時期と関係してくるものと思われる。

今後、記録資料や出土遺物の整理を進める過程で様々な検討を加えていければと考えている。

(土井 孝之)



自然流路(川)から見つかった籐(しがらみ)状遺構

吉礼Ⅲ遺跡の発掘調査及び出土遺物等整理

遺跡の時代：室町時代
所在地：和歌山市吉礼地内
調査の原因：和歌山橋本線道路改良工事
調査期間：2018.04～2018.05
調査コード：18-01・255
整理期間：2018.06～2018.09

はじめに

和歌山県から委託を受けて、都市計画道路和歌山橋本線道路改良工事に伴う調査を平成29年度から実施している。本年度は第2区の約310㎡を対象に発掘調査を実施した。

吉礼Ⅲ遺跡は、東西を丘陵に囲まれた谷筋及び丘陵裾部に立地し、南に和田川が流れる弥生時代の散布地である。周辺には、縄文時代前期から後期の土器や貝類、獣骨が採取されている吉礼貝塚や、和田遺跡、神前遺跡、井辺遺跡などの弥生時代の遺跡が存在する。

調査の成果

調査の結果、15世紀以前の自然流路1条、15世紀前半の方形を呈する落ち込み2基、溝2条、水田2枚、それに伴うとみられるN-15°-Eに振れる畦畔1本、流路1条を検出した。流路の流れる方向からみて、この時期には、現在でも使用されている北の本谷池等から灌漑用水を引いて水田を営んでいたと推察される。また、これらの遺構が、文献史料の荘園等に関わる可能性が想定される。

整理作業の概要

発掘調査終了後に平成29・30年度に実施した、吉礼Ⅲ遺跡発掘調査業務で出土した遺物及び現地調査記録等の整理作業を実施した。

出土遺物（コンテナ4箱）は弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、中国製磁器、石製品等である。

出土遺物は洗浄、注記、登録、接合・補強、復元、実測、写真撮影を行った。遺物実測図と遺構図はトレース、組版作成を行い、調査報告書の原稿を作成し、調査報告書を刊行した。（山本 光俊）

藤並地区遺跡の第3次発掘調査及び出土遺物等整理

遺跡の時代：奈良時代・鎌倉時代
所在地：有田郡有田川町土生、明王寺、水尻
調査の原因：一般国道42号（湯浅御坊道路）の4車線化事業
調査期間：2018.05～2018.07
調査コード：18-21・032
整理期間：2018.08～2018.09
対象コード：15-21・032-1、15-21・032-2、17-21・032、18-21・032

調査の成果

今回の調査区は狭小（261.2㎡）で、攪乱も多かったものの中世の落ち込みや江戸時代の土坑などを検出することができた。建物跡など直接生活に結びつくような遺構は検出できず、出土遺物も希少で細片であることも勘案すると、調査区付近は集落の縁辺部に相当し、中世以降は水田であったと考えられる。

中世の水田耕作土層からは旧石器時代に関係すると

考えられる硬質頁岩の剥片、弥生時代の石鏃や奈良時代の須恵器も出土したが、これらの時期に該当する遺構は皆無であった。

また、今回の調査区は、1995年3月発行の『藤並地区遺跡発掘調査報告書』掲載のM地区南東隅の東隣に位置する。M地区南東隅からは旧石器が多数出土しており、今回の調査でも旧石器の出土が予想された。しかし、旧石器の出土する対応層（7層～10層）が確認されたものの、旧石器は出土しなかった。

整理作業の概要

現地調査終了後に平成27年度から同30年度にかけて実施した藤並地区遺跡第1次～第3次発掘調査業務で出土した遺物及び現地調査記録等の整理作業を実施した。

出土遺物（コンテナ12箱）の内、土器・瓦類は洗浄・注記・登録・接合・復元・実測及び遺物実測図と遺構図のトレース作業、組版作成作業、原稿執筆等を実施した。各々のトレース図については、調査報告書の原稿を作成し、調査報告書を刊行した。（土井 孝之）

新宮城下町遺跡の第2次発掘調査

遺跡の時代：縄文時代～江戸時代
所在地：新宮市下本町
調査の原因：新宮市文化複合施設建設
調査期間：2018.04～2019.03
調査コード：17-43・043

はじめに

新宮市文化複合施設の建設に伴っては、平成27年度に第1次調査として対象地の調査が実施された。この調査において、江戸時代の武家屋敷地の境を成す大規模な石垣や道路跡などが検出され、その下層には中世の湊に付随すると思われる遺構がきわめて良好な状態で遺存していることが判明した。このため新宮市では、埋蔵文化財の保存を優先し、当該地での建設を断念するに至った。その後確認調査などを経て、新宮市は新たな建設予定地として第1次調査区の西側隣接地を選定した。本調査は、これを受け予定地約3,450㎡を対象に第2次調査として発掘調査を行ったものである。なお第1次調査も含めた当該地は、新宮城（丹鶴城）のすぐ西側、大手に面した地区に相当する。

調査の成果

近世の遺構としては、第1次調査でも確認されていた屋敷地境を画する石垣の延長部を検出した。確認された規模は延長約63m、高さは最も残りの良い部分で1.3mを測る。一部積み直しが認められるものの、大きな石材を用いて構築されており、江戸時代の初期



調査地遠景（北西上空から）

に造られたものと判断される。また、やはり第1次調査で確認されている「河原町通り」の北側延長部や、もう一本西側の通りである「竹屋町通り」についても確認することができた。これらの道路については、江戸時代はじめには作られ、何度か嵩上げ等の補修を加えつつ昭和21年の南海地震による壊滅的な被害を受けるまで連綿と使われていたことが判明している。

そのほか近世の遺構としては集石遺構や石組の土坑などが見つかっているが、近現代に大きく削平を受けており礎石等はまったく残っておらず、屋敷地内における建物の配置等は明らかにすることができなかった。

中世の遺構としては、掘立柱建物、大型土坑、地下式倉庫、階段を伴う通路などを検出した。このうち掘立柱建物については、調査区の南側を中心に径0.3m前後の柱穴が無数に検出され、相当数の建物がかなりの頻度で建て替えられていた様相が窺われる状況であったが、実際には2間×3間規模の建物を4棟確認するにとどまった。大型土坑と称している土坑は、径1.2m前後、深さ2m以上を測るもので、第1次調査においても数多く検出されているが、今次の調査においても12基検出されている。この大型土坑については、出



江戸時代の屋敷境の石垣（北東から）



調査区全景（北北西から）

土遺物からみて鎌倉時代前期に帰属する可能性が高いものと判断しているがその用途については不明である。

地下式倉庫については、16基を確認した。いずれも地面を1mほど掘り窪めた2m×3m前後の平面規模を有するもので、大別すればその造りから石積みによるものと素掘りないしは壁土を貼り付けたものに大別できる。素掘りのものの一つは火災により焼失したようで、床面には炭化材が残っていた。それによれば四隅に上屋を受ける柱があり、床面は厚さ5cmほど小礫を敷き詰めた上に0.6m間隔で根太を渡し、それに直交する形で床板を貼るなど構造の一端が明らかになった。また、石積みのものについては、数次にわたる造り替えが確認されている。

その他3か所において、北側の川へと下っていく階段を伴う通路を検出した。通路幅は1.2mほどとさほど大きなものではない。こうした小規模な通路が、一定間隔で設けられていたものと想定される。これらの遺構の時期については概ね室町時代中頃から後半に帰属するものと思われる。また、これらの遺構に伴い中国製の磁器や常滑、備前、瀬戸などの国産陶器、土師質の鍋など数多く出土している。なお、これらの中世の遺構のうち遺存状況もよく、とりわけ重要なものについては、剥ぎ取りを行ったり、3D測量を実施するなど、将来的な展示活用を念頭にした保存措置を講じている。

以上は中世の遺構であるが、これ以外に弥生時代末と思われる竪穴建物も1棟であるが検出された。さらに縄文時代の遺構・遺物についてもわずかに認められたが、調査区の北東部のみの検出にとどまった。こうした状況から縄文時代の集落については、今次の調査区より東側に展開していたものと想定される。



階段を伴う通路（北から）

まとめ

数多く検出された遺構の中でとりわけ注目されるものは地下式倉庫である。このような地下式倉庫は、単体としての重要性よりむしろ群として存在していることが重要と考えている。地下式倉庫群は、これまで見つかった川側に降りていく階段、さらには鍛冶施設などとともに湊を構成する主要な施設であると言え、当該地付近がその中枢として機能していたことを物語るものと言える。

なお、中世の大規模な物流システムを考える場合、宗教的施設なり権力が介在するのが普通であり、当地が熊野三山の膝下、とりわけ指呼の間にある熊野速玉大社と無縁であったとは思えない。

こうした問題や、貯蔵されていた内容物など現段階では不明な点が多いが、詳細な存続時期なども含めて次年度から予定されている整理業務にその解明の期待がもたれるところである。

(村田 弘)



焼失した地下式倉庫（北から）



石積みの地下式倉庫（東から）

道湯川集落跡（仮称）の発掘調査

遺跡の時代：中世～現代

所在地：田辺市中辺路町道湯川

調査の原因：熊野古道見どころ整備事業

調査期間：2018.11～2019.02

はじめに

和歌山県が実施している熊野古道見どころ整備事業の一環として、熊野参詣道中辺路沿道北側に位置する道湯川集落とされる集落跡（以下「道湯川集落跡（仮称）」とする。）の発掘調査や三次元レーザー測量、解説板製作設置等を実施した。

道湯川集落跡（仮称）は、三越峠のやや近い場所に位置し、集落の中心部は湯川川の東側、東西方向に流れる大瀬谷川を跨いで南北の谷間に広がる。今回は、大瀬川北側集落の微高地上に広がる屋敷地跡の108㎡を対象に発掘調査を実施した。

調査の成果

発掘調査の結果、鎌倉時代から室町・安土桃山時代に建てられたとみられる2間×5間の掘立柱建物跡や近現代の礎石建物跡が確認された。また、こうした遺構や調査地周辺から鎌倉時代の山茶碗皿や室町時代の中国製青磁、室町時代から江戸時代の土師器皿、江戸時代の陶磁器などが出土した。

とくに掘立柱建物跡は規模も比較的大きく、また、調査地周辺から中国製青磁が出土したことなどから、参詣時の宿場や休憩所に関わる建物跡の可能性があり、大変注目される。（山本 光俊）



調査区全景（南から）

根来寺遺跡の発掘調査支援

遺跡の時代：中世

所在地：岩出市根来

調査の原因：旧県会議事堂整備事業

支援期間：2018.06～2019.03

はじめに

和歌山県が発注し、和歌山県教育委員会が実施する旧県会議事堂整備事業に伴い、根来寺遺跡発掘調査等支援業務を実施した。支援業務の対象は移築された旧県会議事堂の西側で検出された根来寺遺跡の半地下式倉庫跡の再発掘及び型取り複製品製作である。

発掘及び型取り業務の概要

業務ではまず、必要な発掘調査等機材の調達、人員の確保のほか、機械掘削等委託の手配等の業務支援をおこなった。

発掘調査は階段状遺構部に1区、北側に2区を設定して、盛土堆積状況等を確認した。次に3区を設定して、半地下式倉庫跡を再発掘した。倉庫跡はS f mによるオルソ画像（複数の写真を用いた補正画像）用の写真を撮影し、専門業者に再委託して編集・図化を図った。

倉庫跡の型取り作業は、専門業者に再委託して実施した。型取りはシリコンを塗布し、FRP（繊維強化プラスチック）を貼り付け、木組みでバックアップ補強し、その後、室内の作業所で彩色した。型取り複製品は、和歌山県教育委員会の収蔵庫に搬入しており、今後、現地に設置する予定である。（丹野 拓）



3区 半地下式倉庫の型取り作業風景

岡田Ⅱ遺跡の発掘調査等支援

遺跡の時代：奈良時代
所在地：紀の川市下井坂
調査の原因：宅地開発
調査期間：2018.08～2018.09
調査コード：18-04・027

支援業務の内容

当文化財センターが紀の川市教育委員会から発掘調査の一部を支援業務として受託し、実施した。支援業務の内容は、岡田Ⅱ遺跡の調査で、紀の川市教育委員会職員の指示のもと機械掘削及び人力掘削、埋戻し作業の現場指揮及び実測、写真撮影作業及び実測図と写真整理作業、調査日誌の作成である。業務終了後に完了報告書作成を行った。なお、本業務には技術職員2名が11日間、調査補助員1名が15日間従事した。

調査概要

調査地は、紀伊国分寺の真南約1.2km、西井阪児童

館の0.1km南側の微高地上である。調査面積は341㎡の内の186㎡で、残土置き場を確保するため南北反転で行った。北側の約1/2を紀の川市教育委員会が、その後、南側を当文化財センターが支援業務として行った。

検出遺構は掘立柱建物、土坑状遺構、溝状遺構などで、出土遺物は微量ではあるものの、土坑状遺構から出土した須恵器の型式から奈良時代に帰属する遺構と考えられる。検出した遺構の性格であるが、奈良時代において紀伊国府は、国分寺と同郡に所在していた可能性が高く、国分寺或いは国衙に関連する遺構と考えられなくもない。
(佐伯 和也)



調査区全景（南から）

竜松山城跡、坂本付城跡の発掘調査等支援

遺跡の時代：中世
所在地：西牟婁郡上富田町市ノ瀬
調査の原因：試掘確認調査等
支援期間：2018.11～2019.02

はじめに

上富田町教育委員会が、和歌山県教育委員会の協力を得て実施した竜松山城跡、坂本付城跡の発掘調査等業務について、一部の作業工程を受託し、支援業務を実施した。

業務内容

竜松山城は室町幕府の奉公衆・山本氏の居城とみられ、坂本付城はその対岸に位置する城跡である。当該業務では、これらの城跡から出土した遺物の台帳作成、注記、接合・補強、復原、遺物実測図・トレース図の作成と坂本付城跡の遺構図トレース作業をおこなった。

遺物実測は、和歌山県教育委員会の指導のもと、

報告書掲載遺物として抽出した遺物42点（土器類35点・瓦5点・石製品2点）を対象としておこなった。

このうち、竜松山城跡の実測対象資料は29点で、底部が糸切底と無調整の土師器皿、青磁碗・盤・香炉、白磁皿、瀬戸天目茶碗・折縁深皿、備前焼播鉢・壺甕類、常滑甕等があった。

坂本付城跡の実測対象遺物は13点で、土師質土器焙烙・磁器・丸瓦・平瓦の破片、基石の可能性のある石があった。また弥生土器も出土しており、接合・復原等ののちに実測した。
(丹野 拓)



出土遺物の実測図

青木 | 遺跡、湯浅城跡の発掘調査支援

遺跡の時代：中世

所在地：有田郡湯浅町青木

調査の原因：こども園建設、遺跡内容確認

調査期間：2018.06～2019.03

調査コード：18-19・006、18-19・005

はじめに

湯浅町（以下「町」という）の依頼を受けて和歌山県教育庁文化遺産課（以下「県教委」という）が実施した湯浅町内遺跡発掘調査等の業務を支援した。

支援業務の対象は年度前半の青木 | 遺跡の確認調査と、年度後半の湯浅城跡の確認調査である。

調査の成果

(1) 青木 | 遺跡

青木 | 遺跡は湯浅城跡南東側の平地部に所在する中世の遺物包蔵地である。町のこども園建設計画に伴い試掘確認調査業務が、平成30年7月17日～27日までの延べ8日間で実施され、当文化財センターでは調査道具類の搬入と重機及び作業員の手配、現場開始に伴う監理・確認を担当した。調査の結果、土坑・ピット等が検出され、中世の土師器・瓦器が出土した。調査終了後に遺構図のトレース作業を含む整理及び事務作業をおこなった。

(2) 湯浅城跡

湯浅城跡は標高約80mの青木山に築かれた城跡で、遺跡の年代把握等のために確認調査が計画された。

当文化財センターでは町と県の調査支援業務として、発掘調査等機材及び人員の確保、その他関連事務を担当したが、調査が長期に渡ったこともあり、県教委の指導のもと、発掘調査の分担指揮と一部整理作業を実施した。有田郡市中世城郭調査指導委員会の現地確認等を受け、慎重かつ必要最低限の掘削を行いながら、順次調査を進めた。

湯浅城跡は湯浅町青木に所在する半独立丘陵上の山城で、中世前半期に勢力を誇った湯浅氏の居城として知られている。調査は湯浅城の主郭より東側の曲輪と堀切を対象としており、南東に開けた広い平坦面に1区を設定し、その背後の堀切部に2区、北東側の曲輪に3区を設定した。1区・2区は竹林、3区は雑木林であったことから、地権者の了解を得たのちに伐採・伐根作業をしたうえで、調査を進めた。調査は平成30年10月29日から平成31年3月15日まで断続的に行った。各調査区は幅1～2mのトレンチを東西方向に長く設定しており、調査面積は1区42.5㎡、2区9.3㎡、3区13.0㎡の計64.8㎡であった。

1区では、焼土塊・炭片を多数含む遺物包含層と土坑・ピット・焼土坑、整地土とみられる複数の層と多数の礎石状の石及び焼土面の存在を確認した。これらは14世紀を中心とする時期のものとみられ、特に下から2面目の遺構面は火災を受けたものとみられ、焼土と炭が薄く堆積し、土師器片・瓦器片が確認された。

2区では、岩盤を削り込んで堀切が作られている状況が確認された。

3区では表土の下に土師器片と染付片が数点ずつ含まれるシルト層があり、その下は緩やかに起伏する自然地形の岩盤となっていた。中世の曲輪の一部が、近世以降に耕作されたものと推測される。（丹野 拓）



1区 中世の礎石と火災痕跡



2区 堀切の掘削状況

川辺遺跡、東城跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：弥生時代～鎌倉時代
所在地：和歌山市山口西、楠本
調査の原因：都市計画道路西脇山口線道路建設
整理期間：2018.05～2019.03
対象コード：17-01・145(川辺遺跡)、17-01・443(東城跡)

はじめに

当文化財センターが和歌山県から受託して実施した都市計画道路西脇山口線道路建設に伴う川辺遺跡、東城跡の発掘調査において出土した遺物および現地調査記録等の整理を行い、調査報告書を刊行した。

整理の内容

本業務は川辺遺跡及び東城跡で出土した遺物（コンテナ 81 箱）と、現地での記録資料を対象に実施した。作業内容としては、出土遺物については注記、接合・補強作業、復元作業、実測作業を行った。トレース作業の遺構についてはデジタルトレース、遺物について

はロットリングペンで行った。次に、遺物写真撮影、版組作業、原稿執筆を実施した。また、平瓦の凹面・凸面については拓本作業を実施した。また、金属製品は東城跡で検出した中世土壙墓から出土した鉄刀片 1 点のみを希少性が高いと判断し、簡易公開調達により専門業者と委託契約を結び、X線写真撮影並びに保存処理を行った。上記の作業終了後に遺物登録番号順に整理して遺物コンテナに収納し、台帳類の作成も行った。現地調査時に撮影した遺構写真及び本業務で撮影した遺物写真についてもタイトルを付して整理した。

(佐伯 和也)



土器復元作業

安宅本城跡の出土遺物整理支援

遺跡の時代：中世
所在地：西牟婁郡白浜町安宅
調査の原因：遺跡内容確認
支援期間：2018.12～2019.03

はじめに

白浜町教育委員会が実施した安宅本城跡発掘調査の出土遺物整理作業について、一部の作業工程を受託し、支援業務を実施した。

業務対象資料は、白浜町教育委員会が選定した出土遺物（コンテナ 3 箱）であり、これを運搬して、和歌山市岩橋に所在する当文化財センターの整理棟で作業を行った。

出土遺物は実測・トレース作業をおこない、台帳類を作成した。業務はいずれの工程も当文化財センターの直営で実施した。

作業内容

実測・トレース作業の対象とした出土遺物は 50 点で、内訳は土器類 43 点、瓦 3 点、石・石製品 2 点、金属製品 2 点である。このうち、土器類は青磁・白磁・青白磁・土師器・須恵器・山茶碗・陶器・磁器・瓦質土器で、土製品として鞆羽口が 2 点あった。また、石・石製品は砥石のほか緑色片岩塊について、必要と考えられる断面及び展開図を作成した。瓦と銭貨・銅鏡については、適宜断面図と拓本を組み合わせる実測図を作成した。また、一部の製品については、重量を計測した。

(丹野 拓)



トレース作業風景

重要文化財 旧西村家住宅主屋 ほか 2 棟の保存修理

建築年代：主屋：大正 4 年（1915）
南外塀・北外塀：大正後期
所在地：新宮市新宮地内
事業の種類：半解体修理（主屋）、部分修理（外塀）
事業期間：2016.04～2019.09

建物および事業、業務の概要

旧西村家住宅は、大正 3 年から 4 年にかけて西村伊作氏自らが設計した 3 度目の自邸である。平成 10 年から新宮市が管理運営を担い、平成 28 年度から 4 ケ年継続の国庫補助事業として保存修理工事を進めて来ている。センターは当事業において設計監理業務を受託している。

今回の修理は、建物下の地盤の安定化や、見学施設としての安全性の向上を目的として始まった。その中で行った解体時の調査結果を基に、大正 10 年代の改修後のすがたを目指す現状変更が認められ、前年度の後半から本年度にかけてその復旧作業を進めて来た。9 月 1 日には修理現場特別公開を実施し、屋根工事や左官工事などで保存修理の様子を紹介した。年度末からは、主屋を覆っていた素屋根の解体に掛かっており、2 年半ぶりにその外観を表し始めている。

保存修理の内容

木工事では、大正 10 年代に改造された部分となる、南側のベランダと北側の風除室まわりで復元的な修理を実施した。ベランダの中央には半円形のテラス・バ



素屋根解体直後の主屋を南西から見る

ルコニーを付加し、手摺の構成も改めた（左下写真）。

風除室は、建築当初はポーチであった部分へ壁板や窓などが建て込まれた空間で、調査によりベランダの改造と一連の施工であることが確認できた。その西脇には煙道が張り出し、その先の屋根上には煙突が立っていたが、昭和 40 年頃の修理でいずれも撤去されていたため、今回の修理では形式的な復旧を行っている（右下写真）。

屋根工事や左官工事では、大正時代の仕様に合わせて、鬼瓦や天窓瓦の一部を復原し、海浜由来の玉砂利を混ぜ込んだ外壁の漆喰塗りや色鮮やかな砂壁による室内などを再現した。同時に、当地方における耐風対策も兼ねて屋根瓦は修理前と同様に土葺きとし、外壁も大正改修時の施工に倣って当初施工と今回施工を併存させた。

今後の予定

素屋根の解体に続いては、南外塀・北外塀の修理や敷地内の整備などを行う。主屋では内装工事を行って、令和元年 6 月の竣工を目指していく。

（下津 健太朗）



主屋の外観を南東から見る



主屋の外観を北東（旧チャップマン邸）から見る

重要文化財 旧名手本陣妹背家住宅 主屋及び米蔵の保存修理

建築年代：江戸時代

所在地：紀の川市名手市場

修理の種類：屋根葺替、部分修理、耐震診断・補強

修理期間：2017.04～2019.12

平成 29 年度から実施されている継続事業の 2 箇年目となる。本事業では敷地内に建つ主屋、米蔵、南倉の重要文化財 3 棟のうち、主屋については座敷部土庇のこけら葺きの葺き替え、木部の小修理と、居室部南西隅の後世に欠き取られた 1 間四方について復原を行う。米蔵については木部の小修理を行う。また、3 棟について耐震診断と耐震補強設計を行い、その結果を元に必要な耐震補強を施す。昨年度は復原部分の現状変更手続きと耐震診断・補強設計を先行して実施し、並行して分解工事と主屋、米蔵の木部修理を行った。

昨年度に実施した耐震診断では、木材（特に柱に多用されているマツ材など）の材料強度を適切に評価できていないことから耐震補強が過剰となっている可能性が指摘された。これを受け、実際に使用されている柱を非破壊で調査するため、京都大学林研究室に衝撃弾性波試験を依頼し、ヤング係数を計測した。その結果を元に実際の材料強度を推定し、耐震診断と補強計画を再検討したところ、当初より必要な補強部材が少なくなり、補強部材の設置位置も建物の意匠や美観に影響が少ない場所に留めることができた。なお、今回耐震補強を実施するのは、常時一般公開され比較的危



衝撃弾性波試験実施状況

打撃用治具で発生し、センサー（CH1、CH2）で受信した弾性波をデータロガーで記録する。

険性の高い主屋のみとした。米蔵、南倉も庇部分が地震時に大きく変形することが想定されたが、普段公開されていない場所であるため危険性は低いと判断し、補強は次回の屋根葺替時に持ち越すこととした。

耐震補強計画については文化庁に承認を受けた後、事業の計画変更を行った。これらの手続きが当初の予定より長引いたことから、今年度予定していた工事を全て消化することが難しくなり、計画変更の際に当初 24 ヶ月であった事業期間を 9 ヶ月延長した。

本年度工事は組立工事として、主屋南西隅復原部分の施工（基礎工事、木工事、左官工事ほか）と耐震補強部材の製作、取り付けを発注した。ところが、台風 21 号の影響により各業種で人手不足が重なったこともあり、予定通り工程を消化することが困難な状況となった。元々がタイトなスケジュールであったことから年度内に工事を完了することが難しくなり、事業を繰り越して 30 年度工期を令和元年 9 月末までとし、平成 31 年度に瓦屋根工事とこけら屋根工事を実施する運びとなった。（結城 啓司）



南西隅復原部分の礎石据え付け状況



南西隅復原部分に係る瓦屋根の分解状況

国史跡 旧名手宿本陣整備事業名手役所 主屋及び離れ・蔵復旧整備実施設計

建築年代：江戸時代
所在地：紀の川市名手市場
修理の種類：復旧整備
業務期間：2018.11～2019.03

国指定史跡旧名手宿本陣は、大和街道沿いに設けられた紀州藩専用の本陣である。敷地の周囲は土堀で囲われ、さらに中央付近を東西に横断する土堀により南北に二分されている。街道に面した敷地の南側には重要文化財に指定されている旧名手本陣妹背家住宅主屋、米蔵、南倉の3棟が配置されており、この地の有力者で地主、大庄屋でもあった妹背家の居住及び紀州藩の本陣として使用されていた。北側の敷地には「名手役所」と呼ばれた主屋と離れ・蔵、脇門などが建ち、名手組の役所として郡奉行所の補助的な機能を果たしていたと考えられる。このように、大庄屋、本陣、役所が同一敷地内に残ることは全国的にも珍しいことから、国指定史跡として評価を受けている。

名手役所は延宝3年（1675）には現在地に存在していたことが史料から判明するが、正徳4年（1714）の火災により建物は類焼したと考えられる。その後、延享3年（1746）までに主屋が再建されている。現状の主屋は東側が平屋、西側が2階建てとなり、一見すると一体の建物に見えるが、構造的には完全に独立した建物が部材を接して建っている。形式や取り合いなどから東棟が西棟に先行して建てられていると推測

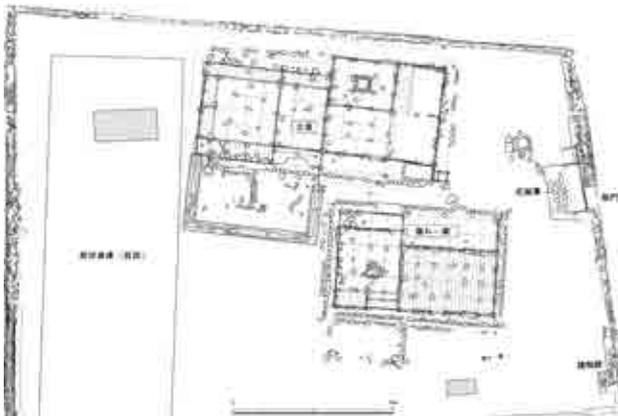
されるが、東棟建設時には既に西側に西棟の前身建物（延享期の建物と推測）が存在し、その東側に接するように増築されている。その後、天保4年（1833）に西側が建て直されて現在の形となった。離れ・蔵は建築年代を明らかにする史料はないが、使用されている瓦の文様から、文政期頃の建築と推測される。

明治になると主屋は巡査派出所として使用され、柱間装置などに改変が行われている。その後は両建物とも借家となって使用されていたが、老朽化して倒壊の恐れがあったため、平成9年度に建物群が一旦分解され、主要な部材は仮設倉庫に保管された。

平成28年度に史跡全体の整備基本計画が策定され、同29年度に当センターが主屋と離れ・蔵の復旧基本設計を紀の川市より受託して実施した。本年度は基本設計の内容に沿って実施設計を行った。当初は31、32年度の2箇年で復旧工事を実施する予定であったが、予算の都合上工程を見直し、31年度は離れ・蔵の軸部組立と壁塗りまでを行うこととし、全体及び31年度の実施設計書を作成した。

建物は史跡の価値付けに基づき、江戸後期頃の主屋と離れ・蔵の景観が整った時期の姿に整備する。分解時に実施された調査の野帳や調書類と、現存する部材を調査することにより当時の姿がほぼ解明できたが、役所という特殊性からか、一般の建物では見られないような部分もあった。その一方で、役所として機能していた時期の建物の使用状況などが不明であることから、建物形態から使用状況を類推できるのではないかと期待している。復旧に際しては柱や瓦など主要な部材は残存している部材を極力再利用し、失われた部材は出来るだけ当時の形式で補足し、往時の姿を再現できるよう努める。

（結城 啓司）



復旧配置図



現状全景（南東から）

重要文化財 那智山青岸渡寺本堂の 保存修理

建築年代：天正 18 年（1590）
所在地：東牟婁郡那智勝浦町那智山
事業の種類：屋根葺替
事業期間：2018.02～2018.12

建物および事業、業務の概要

那智山青岸渡寺は、西国三十三ヶ所巡礼の第一番札所である。如意輪観世音菩薩を本尊とする本堂は、正面 9 間、側面 9 間、屋根は入母屋造・こけら葺の建物で、屋根面積は 1,000㎡を超える。現在の建物は、天正 9 年（1581）の兵火で焼失した後、同 18 年（1590）に豊臣秀吉により再建された。享保 18～19 年（1733～1734）には柱や虹梁などを取り替えた大規模な修理も確認されている。明治 37 年（1904）に特別保護建造物（現在の重要文化財）に指定されて以降、大正 14 年に半解体修理、昭和 37 年、同 60 年、平成 18 年に屋根葺替修理が行われて来ている。

今回の修理は、平成 29 年 10 月の台風による豪雨被害を受けて、平葺き部分の劣化が軒先で多く表面化し、強風等による葺き材の脱落や、一部では野地が露出して雨漏りを生じるなどの破損が進行したため、災害復旧事業として実施に至った。

前年度に着手した仮設工事での素屋根建設後に、こけら屋根の葺き替え作業や、屋根まわりの木部や軒樋などの補修を行い、12 月に竣工した。



野地の補修状況を北東から見る



竣工した本堂屋根を正面側（北東）から見る

保存修理の内容

今回の修理では、屋根葺き材料となるこけら板の仕様やその葺き方について、大正期修理以降の内容を確認・整理した。その結果を基に文化庁調査官の現地指導時の協議もふまえて、大正期修理の仕様に準じることを選択した。

実施では、修理前に厚さ 1 分（約 2.5～3 ミリ）であった杉板を大正期修理と同じ厚さ 1 分 5 厘（約 4.5～5 ミリ）の杉板に戻した。それに伴って、昭和修理以降仕様の改変で調整を繰り返されていた野地も大正期修理の状態に整備した。また、防腐対策として、葺き材（下半の全材）へ防腐剤の塗付けを施すとともに、大正期修理での銅鋳釘止めを参考に、葺込み銅板を多めに仕込むかたちで緑青の効果にも期待した。

近年激しさを増す気象現象に対して、これらの施工がどう抵抗していけるものか、今後の経過を見守っていききたいところである。

（下津 健太郎）



こけら葺の施工状況を北東から見る

県指定文化財 地蔵堂の保存修理

建築年代：天正 17 年（1589）
所在地：伊都郡かつらぎ町花園北寺
事業の種類：部分修理
事業期間：2018.02～2019.03

建物および事業の概要

地蔵堂は有田川の最上流部、旧花園村の深い山あい
に立地する。沿革は不明であるが、天正 17 年（1589）
の棟札が打ち付けられている。桁行三間、梁間三間、
入母屋造、茅葺で現状はトタン仮葺とする。内部は一
室で間仕切りを設けず、中央後方に須弥壇を構える。
左側面と背面の縁部分は、後世の改造により室内に取
り込まれている。痕跡や部材の風蝕の状況から当初は
側廻りの建具が入らず、四方吹き放しであったと考え
られる。当堂は寺院に属さず地元の人々によって護持
される、いわゆる村堂であり、行事や寄合いの場とし
て用いられ、村人の信仰の中心的施設として機能した。

地蔵堂は、地元の人びとによって繰り返し修理が施
され現在に至っているが、建物が右（南）に大きく傾
いていたので建物の建て起こし、不陸調整、礎石の据
え直しを中心とした修理を平成 29・30 年度で行った。

保存修理の内容

修理前、礎石は砂利や石が敷き詰められた土間の上
に全部露出して置いて置かれており、柱と礎石の間はモ
ルタルで覆われていた。柱の腐朽に伴い礎石を持ち上
げてモルタルで基礎で補っていたと考えた。しかし、



竣工 全景

モルタルを解体すると柱と礎石の間に木材やくさびが、
入れられ、それを固定するのにモルタルが用いられて
いただけであった。柱には当初の石口が残存しており、
礎石ともピッタリと合う。また、左側（北側）の礎石は
地面に埋まっており不陸も見られない。建物の傾きが
生じたのはかなり昔であると思われる。和釘を用いて
江戸時代以前に設けられた押入は、建て起こしを行っ
た後、垂直に据え直すと元の位置に納まらなかった。

堂の建立に当たって盛り土して整地を行ったが、盛
り土が雨水等で流れ出したため、礎石が露出してもと
の地盤面まで下がり不同沈下が生じたと考えた。

今回の修理では、当初の石口を残す柱と礎石はその
まま再利用した。建物をジャッキアップして正規の位置
に固定し、礎石を柱に密着させて正規の高さに納め、
礎石の下に割り栗石を込んで動かないようにして礎石
の周囲をコンクリートで巻いて固定した。盛り土の基
壇は復旧していない。コンクリートの基礎が床下に見
えているが、今回の部分修理では最善の策であったと
考えている。その後、根太に釘を増し打ちして床組を
固め、建て起こしなどのために解体した床・壁を復旧
し工事を終えた。建て起こした建物が再び戻らない
ように天井の上で金具で補強した。（寺本 就一）



竣工 内部正面



竣工 内部見返し

県指定文化財 護国院開山堂 ほか4棟保存修理に伴う基本設計業務

建築年代：江戸時代前期
所在地：和歌山市紀三井寺
修理の種類：半解体修理、部分修理、屋根葺替
業務期間：2018.11～2019.03

紀三井山金剛宝寺護国院は西国三十三所観音霊場の第二番札所として、また早咲きの桜の名所として広く知られており、紀三井寺の通称で親しまれている。

楼門、鐘楼、多宝塔の3棟が重要文化財に指定されており、本堂、開山堂、六角堂、大師堂、三社権現（白山妙理権現、熊野三所権現、金剛蔵王権現）、書院が和歌山県指定文化財となっている。これら県指定建造物のうち、開山堂、大師堂、三社権現について破損が目立つことから、保存修理事業が立案され、本年度は基本設計業務を宗教法人護国院から受託した。また、書院や本堂の須弥壇についても不具合がみられることから、現状の確認と修理方針の検討を依頼された。

開山堂は桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、正面向拝一間付、瓦葺の建物で、開山である為光上人が祀られている。建立年代は詳らかでないが、天明8年(1787)に瓦が葺き替えられている。向拝の軒廻り部材が雨漏りにより腐朽をきたしているが、瓦の外観は健全であることから、屋根勾配が緩いため逆漏りが生じていると推定される。その他、縁廻り木部に腐朽が、建具に破損が認められる。以上から、屋根瓦の部分葺き替え及び部分修理（軒廻り、縁廻り、建具）の基本設計を行った。



開山堂の外観



大師堂の外観

大師堂は桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、瓦葺の建物で、弘法大師が祀られる。側面（南面）の軒瓦の一部に破損がみられ、建具にも部分的な破損や建て付けの不具合がみられたため、部分修理（屋根の一部、建具）を計画した。

三社権現は一間社隅木入り春日造、こけら葺きの建物で、覆い屋の中に西面して同規模、同型式の3棟が並列している。各建物で程度の差はあるものの、蟻害による破損が甚大で、一刻も早い修理が求められる状況であった。覆い屋の内部にあり屋根や軒廻りは比較的健全であったため、桁より上部を大ばらしして軸部を解体する、半解体修理を計画した。

書院は柱の傾斜と不陸を計測した。その結果、棟通りを中心に両側が大きく沈下しており、応急的な補修は難しく、中長期的な計画を策定する必要があると判断した。本堂は須弥壇の外周部分に歪みがあり、また厨子と併せて漆の剥落、破損がみられた。今回の修理ではひとまず須弥壇の内部構造の確認と応急的な補強を行う計画とした。

修理事業は平成31年度から2箇年で補助金を得て実施する予定である。
(結城 啓司)



三社権現（熊野三所権現）の外観

景観重要建造物 大福院本堂の保存修理

建築年代：江戸時代（17世紀後期）
所在地：田辺市湊
事業の種類：解体修理
事業期間：2018.07～2020.03（修理期間：2018.11～）

建物および事業、業務の概要

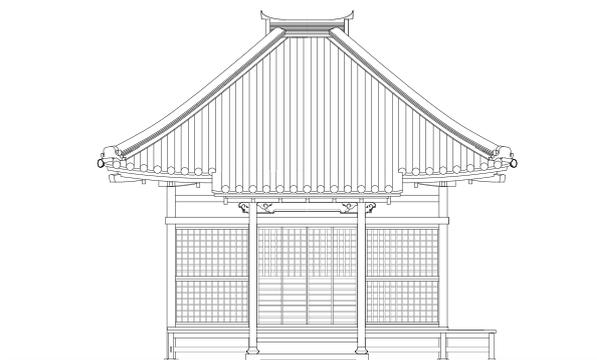
国土交通省の「景観まちづくり刷新支援事業」によって、鬮雞神社周辺や JR 紀伊田辺駅前などで景観資源を活かしたまちづくりを進めている。「鬮雞神社周辺の景観整備」の一環として神社境内に隣接する「大福院」にある本堂（平成 29 年 7 月、景観重要建造物第 1 号に指定）の修理が文化財に準じた方法で行われている。平成 29 年度に復原調査と基本設計を行い、それを元に実施設計を組み、工事の監理も行っている。

大福院は熊野別当湛増の開創で、彼は新熊野鷄合宮本願であったという。天正の豊臣氏の兵火で焼かれたが、寺蔵の寛永 7 年（1630）の境内図写にも鬮雞神社の別当本願坊極光寺として今の位置に境内を構えている。

本堂は小規模な寄棟造本瓦葺きの三間堂で、建立年代は向拝の虹梁絵様から 17 世紀後期と考えられる。一間の向拝を付け、堂内の前側二間を外陣、後方を内陣としている。向拝の虹梁・木鼻以外に装飾的部材は一切なく簡素な堂である。もと蟻通神社の薬師堂であったと伝えられている。

保存修理の内容

11 月から工事に着手、基礎を残して解体が終了した。礎石は深さ 30～40 センチ埋められており、大きな不



変更 正面立面図

同沈下は見られなかった。建物が東に大きく傾いていたのは基礎ではなく木部の破損によるものであった。

解体に合わせて痕跡等の調査を行い、昨年度作成した復原案・修理方針を精査した。小屋組や軒廻り等は基本設計案のままでよかったが、土壁を解体して柱の痕跡を調査した結果、間仕切りや建具などの柱間装置の復原案を変更する必要が生じた。

正面両脇間の部の下の小壁は、土壁・板壁の痕跡がなく下部も建具が入る半部戸となることがわかった。

また、解体前から東側面の南寄り二間に建具が入ることはわかっていたが、さらに北側に片引き戸が入ることが確認できた。これにより基本設計では内陣に出入りできなくなるため中央間を開放としていたが、内陣に側面からの入室が可能となったことで内外陣境の結界を痕跡どおりに復原整備することとした。

向拝の桁と水引虹梁は密着しているが、桁と虹梁の間には組物の痕跡は確認できず当初から密着している事が明らかになった。向拝の正面石階段や柱礎盤の位置関係も当初のままであることがわかった。

結果 2017 年度年報の表紙に用いた立面図は、上の図のように大幅に変わる事となった。

（寺本 就一）



小屋組 分解中



軸部 分解中

県指定文化財 上岩出神社本殿の保存修理

建築年代：文禄2年（1593）
所在地：岩出市市北大池
事業の種類：屋根葺替
事業期間：2017.11～2018.07（修理期間2018.02～）

上岩出神社は、根来寺旧境内の東端に位置する。かつては白山妙理権現社と称した。『紀伊続風土記』には長承2年（1133）に覚鑿上人が越前の白山権現を勧進したのに始まり、天正13年（1585）に根来寺とともに焼失、再建されたとある。本殿は、正面間口が3メートルほどの中規模な三間社流造の建物である。文禄3年（1594）の棟札が存在し、構造手法からもこの時の建立であると考えられる。

今回の修理は、檜皮葺屋根の葺き替えと箱棟・千木・勝男木の補修であった。野小舞・野垂木は前回修理のコールタールによる防腐処理がよく効いており腐食もなく、軒先部分の野小舞を除いて再利用した。

野地を解体していないので近くまで寄れなかったが、小屋組の当初材は楠材、保管部材の裏甲の残材なども楠材であることを確認した。建物の化粧材は柱・桁・梁にはじまり垂木・茅負・破風板・懸魚に至るまで楠材が使用されており、この本殿は総楠造の建物である。

繫海老虹梁の絵様の渦や大瓶束の結綿の雲をあしらった珍しい意匠についてはすでに指摘されており、修理に伴い建物内を拝見したが、外陣内には雲の彩色が確認できた。彩雲は『来迎図』などにも描かれているもので、仏教との関わりも考えられる。（寺本 就一）



檜皮屋根平葺作業

県指定名勝 藤崎弁天弁天堂建造物調査業務

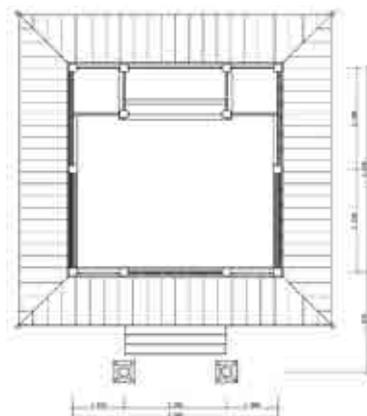
建築年代：江戸時代
所在地：紀の川市藤崎
事業の種類：調査業務
事業期間：2018.05～2019.03

藤崎弁天は、王子川が紀の川に合流する地点、樹間に奇岩が立ち並ぶ場所で、頂上の平坦地に弁財天を祀っている。幕末の頃、琴の名手として知られた古岳上人幽真が住んでいたところで、県指定名勝に指定されている。

弁天堂は、桁行三間、梁間二間、屋根は寄棟造・棧瓦葺の小規模な建物である。詳細な建立年代は明らかでないが、発見された棟札から万延元年（1860）に修理されていることが判明した。向拝や内部の絵様が、この時期のものと考えられ、向拝・内部造作にかけて大規模な改修がされたと推定できる。近年には、向拝まわりの棧瓦がプレス工法で製作されていること、床束に大きな破損が認められないことから、屋根葺替と床組修理が行われたとみられる。

小屋組まで蟻害を受けている為、軸部の見えない部分で破損が進行している可能性がある。正面向拝まわりを部分的に残し、屋根と軒まわりが崩落している。また、側面及び背面の縁まわりも崩れ、軸組を残すのみである。

本年度は調査業務とし、弁天堂修理に向けて平面図・断面図・立面図を作成した。（大給 友樹）



弁天堂の平面図

熊野那智大社境内施設整備事業技術支援 熊野那智大社拝殿の保存修理

建築年代：江戸時代
所在地：東牟婁郡那智勝浦町那智山
修理の種類：復旧整備
業務期間：2018.11～2019.03

建物および事業の概要

熊野那智大社は、熊野速玉大社・熊野本宮大社とともに熊野三山と呼ばれ、熊野信仰の中心の一つである。境内は、西の奥に本殿を5棟並べ、矩折に八社殿と御県彦社を配置し、拝殿・舞殿・幣殿が第四殿、第三殿の前に建つ。本殿は嘉永4年から嘉永7年（1851～1854）にかけて建てられたもので、重要文化財に指定されている。また、境内は史跡熊野三山に指定されている。

神社では、御創建1700年記念境内施設整備事業として拝殿、一の鳥居、二の鳥居、宝物殿、長生殿、絵馬掛、神馬舎、兒宮、手水舎（2カ所）、祈願所などの修理を実施している。拝殿の銅板屋根葺替、塗装修理、向拝部分の解体修理から修理を行い、2020年3月にすべての修理の完成をめざしている。

今回の修理で弊殿の小屋組内に棟札が安置されていることを確認した。その棟札から昭和9年9月の室戸台風によって、社殿をはじめ諸堂ことごとく大破したため、境内復興に伴い弊殿祝詞殿廻廊を付設した礼殿（拝殿）が建てられることとなり、昭和16年3月19日に上棟したことがわかった。また、小屋組には同時期の大工の墨書もあり、大工は地元の東牟婁郡田原村（現：東牟婁郡串本町田原）の出身であった。



竣工 拝殿全景



竣工 拝殿屋根全景

昭和34年6月の屋根葺き替え工事で、檜皮から銅板に換えられている。昭和47年に庇が設けられ、昭和57年に軒唐破風が付加され、必要に応じて書室務・授与所・神饌所などが増築されて現在の姿となっている。

保存修理の内容

銅板の劣化等の不具合から雨漏りが発生し、銅板屋根の葺き替え、腐食した向拝の桁や柱などの取り替えに端を発した工事は、建物全体の塗装・壁や天井の木部補修などが行われた。これらの修理だけでなく、授与所の屋根形状の整備・手狭な授与所の拡幅・閉じられたままの弊殿の扉を開き・舞殿の窓を復旧・照明設備の整備・空調設備の新設とそれに伴う建具の新調など多岐にわたった。

改修の設計は神社本庁内に事務所を置く日本建築工芸設計事務所が担当し、修理に関する部分は当センターが担当した。複雑化した授与所の屋根の整備は、昭和16年建築当初の屋根には手を加えず、増築部分だけを整理するように設計担当と協議を行った。他の部分の修理においても建築当初の弊殿祝詞殿廻廊を付設した礼殿部分は将来の文化財指定（登録）を見越して極力手を入れないように努めた。（寺本 就一）



竣工 内部正面

新宮城下町遺跡出土の渥美壺及び瀬戸燭台

はじめに

南北に長い和歌山県においては、紀ノ川流域を中心とする紀北地方と牟婁郡とも言われている紀南地方とは出土遺物の傾向が大きく異なっている。

全体的にみれば、南へ下がるほど東海地方の影響が強くなる。とりわけ県の南東端にあたる新宮市はその傾向が顕著である。とくに中世においては、熊野三山膝下にあたることもあり、人の往来とともに各地の文物がもたらされていたと考えられる。それ以上に重要なのは、半島近く大洋に面した地に所在するという地理的要因に求められよう。すなわち当時の物流の中心であった海上交通の要であり、船舶により東西の陶器が多量にもたらされている。

ここでは、そのなかでも紀ノ川流域では出土することが稀な東海系の陶器である渥美の壺と瀬戸の燭台の2点を取り上げて紹介しておきたい。

【渥美壺】 渥美焼は、現在の愛知県知多半島で生産された焼き物である。碗・皿類などの日常雑器もつくられているが、肩部に袈裟禪文や秋草文を刻した壺が有名で、戦前神奈川県で発見された「秋草文壺」は国宝になっている。窯業期間は12世紀初頭（平安時代末）から13世紀末（鎌倉時代）と考えられており、同じ中世窯として知られる知多半島の常滑が中世全般を通して盛況を誇るのに較べると、その期間は短い。そのこともあってか出土例が少ない製品である。

出土した遺物は、壺の肩部の破片である。肩部にヘラ描きによる文様が施され、頸部下半から肩部にかけ



渥美壺片

て暗緑色の自然釉がかかり、頸部と肩部の境に凸帯状の段差が巡らされる。口縁部は欠損しているが、おそらくわずかに外反し、端部を丸く収めるタイプと考えられよう。その刻文と頸部の特徴から鎌倉時代初めの渥美の壺と考えている。

【瀬戸燭台】 頂部と裾部を欠いているが、完形品であればおそらく器高25cmほどになるものと思われる。全体に淡い草緑色の釉がかかる。上端部には径5cmほどの小皿がつくもので、その下には径12cmの受け皿がついている。支柱はスカート状に大きく開くと思われ、胴部中ほどにやや粗雑な2本の沈線が巡らされている。断面観察の結果、支柱部は上下で分割成形されていた可能性が高い。室町時代の典型的な燭台といえるが、和歌山県内での確認例はほとんどなく、これほど全体の形がわかる大振りの破片は初例といっていであろう。

以上、平成30年度に実施された新宮城下町遺跡第2次調査で出土した逸品2点を紹介した。先に述べたようにこれらの製品は紀ノ川流域の紀北地方ではほとんど出土しないものであり、新宮ならではの出土品と思われる。そのほか山茶碗も含めて東海系の焼き物が多く出土しており、今後予定されている出土遺物等整理業務のなかで、さらなる逸品、当時の物流を考察する上で貴重な資料を得る可能性が高いものと考えている。（村田 弘）



瀬戸燭台

和歌山市井辺遺跡出土の土製支脚

はじめに

井辺遺跡は、往時の紀ノ川南東岸の県内でも最も肥沃で広大な面積を抱える和歌山平野の南東部に位置する。この井辺遺跡は、岩橋山塊の西端に位置する半独立丘陵的な福飯ヶ峯（標高 102 m）の北西側の丘陵裾部から沖積平野部に立地する。

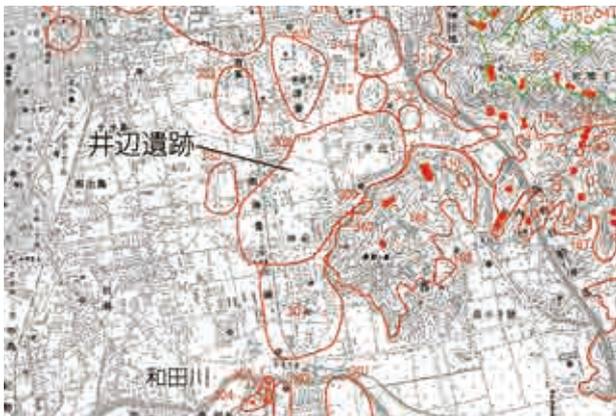
井辺遺跡の周知の遺跡範囲は、北東－南西幅約 1,100 m、北西－南東幅約 500 mを測る長楕円形状を呈し、和歌山平野の中でも最も広範囲に展開する遺跡である。

調査は、1964（昭和 39）年の用水路工事による遺跡の発見を契機とし、和歌山市教育委員会・（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団及び当文化財センターによる 60 数次にわたり実施されてきている。

調査遺構の状況

今回紹介する資料は、2011 年度に当文化財センターが実施した都市計画道路松島本渡線（神前南）道路改良工事に伴う発掘調査により、2011 - 4 区の 4259 自然流路から出土したものである。

4259 自然流路は、幅員約 10 m・検出延長約 60 m・深さ約 1.5 mで、大量の土器資料と共に多量の木製品・木質遺物が出土した。大別すると、主に最下層は弥生時代後期末から弥生時代終末期、下層は弥生時代終末期（庄内式併行期）、中層は古墳時代前期（布留式併行期古段階）、上層は古墳時代中期、最上層は古墳時代後期で完全に埋没した状態となる。



遺跡位置図（S = 1 : 70,000）

土製支脚

4259 自然流路から出土した土器・土製品・石器の総数は 61,365 点である。その内、弥生時代後期・終末期～古墳時代後期と判断した遺物は、61,355 点となり、土製支脚は 21 点が含まれる。

土製支脚には、大きく 4 形態が存在する。該当時期での和歌山県内では初例となる資料である。

Aタイプ：上端部に 3 方向の突起があり、背面側の突起は短い。最終調整にタタキ成形が残る土製支脚。

Bタイプ：上端部に 3 方向の突起があり、背面側の突起は短い。最終調整が不定方向のユビナデ調整の土製支脚。

Cタイプ：上端部に 2 方向の長い突起があり、背面側の小突起の存在は不明となる土製支脚。

Dタイプ：上端部に突起が無く、上部が皿形を呈する。最終調整が不定方向のユビナデ調整の土製支脚。

これらの土製支脚は、4 m 毎の層位毎に取り上げられた遺物群の共伴関係から、Aタイプが庄内式併行期古段階に、B・Cタイプが庄内式併行期新段階～布留式併行期古段階に属する可能性が考えられる。

（土井 孝之）



Aタイプの土製支脚



Bタイプの土製支脚



Dタイプの土製支脚

平成 30 年度の普及活動

○埋蔵文化財に関する普及事業

- ・ シンポジウム・報告会
和歌山県内文化財調査報告会「地宝のひびき」
公開シンポジウム
「中世紀の国の武士団とその居館」
- ・ 現地見学会
「歩いて知るきのくに歴史探訪～根来寺再発見～」
- ・ 和歌山県内埋蔵文化財調査成果展
「紀州のあゆみ」
- ・ 発掘調査現地説明会・現地公開
「吉礼Ⅲ遺跡」、「和歌山城跡」、「新宮城下町遺跡
子ども遺跡探検」、「新宮城下町遺跡(第2次)」、「和
田岩坪遺跡」、「田屋遺跡(第3次)」
- ・ 「関西・考古学の日 2018」関連事業 スタンプラリー

○文化財建造物に関する普及事業

- ・ 修理現場見学会
「重要文化財 旧西村家住宅」

埋蔵文化財に関する普及事業

平成 30 年度の普及啓発事業として埋蔵文化財関係では 11 件の事業を実施した。県内の各発掘調査現場において随時実施して現地説明会・現地公開を実施した。

季刊情報誌「風車」の刊行の他、各事業において資料集やマップ等を作成し、参加者及び周辺自治体、研究機関等に配布し、好評を得た。

文化財調査報告会「地宝のひびき」

平成 30 年 7 月 14 日に和歌山県立図書館（きのくに志学館）2 階講義・研究室において、前年度の埋蔵文化財調査の成果などを知っていただくため、和歌山県内文化財調査報告会と題して開催した。参加者数は 60 名である。

発表は、「古墳時代の集落跡―田屋遺跡の発掘調査―」金澤舞（当文化財センター）、「古代の掘立柱建物跡群―粟島遺跡の発掘調査―」森原聖氏（紀の川市教育委員会）、「伝承が明らかとなった中世の館跡―東城跡の発掘調査―」村田弘（当文化財センター）、「姿を現した武士の館―藤並城跡の発掘調査―」川口修実氏

（有田川町教育委員会）、「紀州藩付家老安藤家・水野家上屋敷跡―和歌山城跡三の丸の発掘調査―」井馬好英氏・藤藪勝則氏（(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団）、「金剛峯寺境内出土の地鎮・鎮壇具―新指定の考古資料―」田中元浩氏（和歌山県教育委員会）・鳥羽正剛氏（高野山霊宝館）である。



地宝のひびき 開催風景

公開シンポジウム「中世紀の国の武士団とその居館」

平成 31 年 2 月 23 日、公開シンポジウム「中世紀の国の武士団とその居館」をイオンモール和歌山 3 階イオンホールで開催した。参加者数は 100 名である。

茨城大学の高橋修氏に「中世武士団の本領と屋敷地（居館）―湯浅氏と湯浅荘を中心に―」という題で講演をいただいた。その他の発表は、「東城跡の発掘調査」村田弘（当文化財センター）、「有田川下流域における湯浅党の居館―藤並城跡の発掘調査を中心に―」川口修実氏（有田川町教育委員会）、「丘陵上の方形居館―御坊市野口城跡の発掘調査―」川崎雅史（当文化財センター）である。発表後には討論を行い、中世紀の国の武士団とその居館について意見を交わした。



シンポジウム 発表の様子



シンポジウム 開催の様子

現地見学会「歩いて知るきのくに歴史探訪 根来寺再発見～根来寺山内の文化財を訪ねる～」

平成30年9月24日、「歩いて知るきのくに歴史探訪根来寺再発見～根来寺山内の文化財を訪ねる～」を開催した。当日26名が参加し、根来寺山内を歩いて見学した。根来寺の主要伽藍や平成22・23年度に実施した発掘調査成果の説明のほか、和歌山県教育委員会が取り組む半地下式倉庫の型取り作業の現場を見学した。



円明寺前において職員による調査説明



主要伽藍内において職員による建造物の説明

和歌山県内埋蔵文化財調査成果展「紀州のあゆみ」

近年に県内で実施された埋蔵文化財関係の調査成果を県民等に公開することを目的に、和歌山県立紀伊風土記の丘・田辺市立歴史民俗資料館で巡回展示を行った。展示を行った遺跡は、粟島遺跡、根来寺遺跡、川辺遺跡、東城跡、田屋遺跡、和歌山城跡、亀川遺跡、祓殿石塚遺跡、新宮城下町遺跡で、新規県指定の文化財である金剛峯寺境内出土の地鎮・鎮壇具をパネルで併せて展示した。展示期間は、和歌山県立紀伊風土記の丘では平成30年6月2日～7月1日、田辺市立歴史民俗資料館では平成30年11月3日～12月2日であった。また、来館者はそれぞれ707名、407名であった。



紀州のあゆみ 展示講座風景（紀伊風土記の丘）



紀州のあゆみ 会場風景（田辺市立歴史民俗資料館）

発掘調査現地説明会・現地公開

遺跡の発掘調査を広く一般の方々に周知するため、発掘調査の現地説明会・現地公開を開催した。

各現場の発掘調査担当者による遺跡の解説を行い、

地元の方を中心に多数の参加者を得ることができた。

現地説明会・現地公開を開催した遺跡と開催日及び参加者数は、以下の通りである。

【現地説明会】

- ・吉礼Ⅲ遺跡 平成30年4月28日 42名
- ・和歌山城跡 平成30年9月22日 146名
- ・新宮城下町遺跡 平成30年8月4日 約146名
平成30年12月15日 約120名
平成31年3月2日 約40名

※いずれも新宮市教育委員会と共催

【現地公開】

- ・和田岩坪遺跡 平成31年2月2日 76名
- ・田屋遺跡 平成31年2月23日 23名

【その他】

- ・新宮城下町遺跡 子ども遺跡探検
平成30年12月15日 約30名

※新宮市教育委員会と共催

- ・和田岩坪遺跡 和歌山市立三田小学校5・6年生
による見学会 平成31年2月4日 127名



和田岩坪遺跡現地公開風景



田屋遺跡現地公開風景



吉礼Ⅲ遺跡現地説明会風景



新宮城下町遺跡現地説明会風景

文化財建造物に関する普及事業

文化財建造物の保存修理現場や所在地において、地元教育委員会開催の現場見学会や文化財関係者等の研修事業に協力し、工事の内容や建物について解説を行った。

このほかヘリテージマネージャー講習会（和歌山県建築士会開催）や、県内の教育委員会主催の講演会に講師を派遣するなど、文化財建造物保存修理事業に伴う調査成果などに基づいた知見を広く県民に還元した。



旧西村家での現場見学会

旧西村家住宅修理現場見学会

9月1日 参加者 40名



和歌山県建築士会館での講義

ヘリテージマネージャー講習会

9月8日 受講者 16名

(公財)和歌山県文化財センター 平成30(2018)年度 概要

I 受託業務

埋蔵文化財発掘調査等受託業務	8件
埋蔵文化財遺物整理等受託業務	1件
埋蔵文化財確認調査支援等受託業務	5件
文化財建造物保存修理技術指導業務等	25件

II 理事会・調査委員会・会議など

理事会・評議員会

理事会	30.06.06	アバローム紀の国
評議員会	30.06.29	和歌山県自治会館
理事会	30.11.26	ダイワロイネットホテル和歌山
理事会	31.03.19	アバローム紀の国

調査指導

新宮城下町遺跡で検出された遺構の評価について(新宮城下町遺跡第2次発掘調査業務)
30.07.23-24 北垣聰一郎(石川県金沢城調査研究所)
於:新宮城下町遺跡発掘調査現場

和歌山城跡発掘調査出土遺物及び新宮城下町遺跡出土遺物(動物遺存体)
整理業務の計画策定及び実施について(和歌山城跡発掘調査業務及び新宮城下町遺跡第2次発掘調査業務)
30.09.18 丸山真史(東海大学)
於:和歌山城跡発掘調査事務所及び
(公財)和歌山県文化財センター事務局

新宮城下町遺跡で検出された遺構の評価について(新宮城下町遺跡第2次発掘調査業務)
30.12.14 綿貴友子(神戸大学)
於:新宮城下町遺跡発掘調査現場

道湯川集落跡(仮称)の保存活用について
(熊野古道見どころ整備事業に伴う道湯川集落跡(仮称)発掘調査等業務)
30.12.16-17 小野健吉(和歌山大学)
於:道湯川集落跡(仮称)発掘調査現場

新宮城下町遺跡で検出された遺構の評価について(新宮城下町遺跡第2次発掘調査業務)
30.12.17、18 黒崎直(元富山大学教授)
於:新宮城下町遺跡発掘調査現場

道湯川集落跡(仮称)の保存活用について
(熊野古道見どころ整備事業に伴う道湯川集落跡(仮称)発掘調査等業務)
31.01.15-16 西村幸夫
(芸術工学研究機構 神戸芸術工科大学大学院)
於:道湯川集落跡(仮称)発掘調査現場

埋蔵文化財関係

近畿ブロック主催者会議等

平成30年度第1回(第57回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主催者会議	30.06.08	主催:(公財)向日市埋蔵文化財センター
第39回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	30.06.14-15	主催:(公財)兵庫県まちづくり技術センター
平成30年度第1回全埋協近畿地区コンピュータ等研究委員会	30.08.03	主催:(公財)大阪府文化財センター
全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック埋蔵文化財研修会	30.11.16	主催:(公財)和歌山市文化スポーツ振興財団
平成30年度第2回全埋協近畿地区コンピュータ等研究委員会	31.02.08	主催:(公財)大阪府文化財センター
平成30年度第2回(第58回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主催者会議	31.02.15	主催:(公財)長岡京市埋蔵文化財センター

「関西考古学の日 2018」スタンプラリー 30.07.21-30.11.30 主催：「関西・考古学の日」実行委員会
(全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック)

文化財建造物関係

平成 30 年度文化財建造物保存修理等監督者会議 30.04.12 主催：文化庁
 平成 30 年度文化財建造物保存修理事業幹部技術者研修会 30.04.13 主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
 文化財量保存技術研修 30 年度学科研修 30.07.29-30 主催：文化財量保存会
 平成 30 年度文化財建造物保存修理関係者会議 (第 64 回) 30.10.22 主催：文化庁
 平成 30 年度文化財建造物主任技術者研修会 30.10.23-24 主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
 平成 30 年度文化財建造物保存修理中堅技術者研修会 31.02.25-28 主催：(公財)文化財建造物保存技術協会

委員委嘱

村田 弘 紀の川市文化財保護審議委員 30.04.01-31.03.31
 村田 弘 名手本陣保存整備委員会委員 30.04.01-31.03.31
 川崎 雅史 御坊市文化財保護審議委員 30.04.01-31.03.31
 川崎 雅史 みなべ町文化財保護審議委員 30.04.01-31.03.31
 川崎 雅史 坂本付城跡、竜松山城跡調査検討委員 30.08.01-31.03.31
 結城 啓司 史跡金剛峯寺境内 (奥院地区) 大名墓総合調査委員会 30.04.01-31.03.31

III 講師派遣・執筆など

埋蔵文化財関係

川崎 雅史 「新宮城下町遺跡の発掘調査 川湊遺跡について」新宮遺跡群の保存と活用を願う会
 30.05.13 於：新宮市福祉センター
 川崎 雅史 「考古学からみた湯河氏の城―湯川氏館跡の発掘調査成果を中心に―」日高町歴史講座
 31.03.24 於：日高町中央公民館
 丹野 拓 「考古学から見た平安～鎌倉時代の田中荘・池田荘」
 特別展図録『西行一紀州に生まれ、紀州をめぐる一』和歌山県立博物館 30.10.13 発行
 丹野 拓 「紀伊における一本づくり・一枚づくり資料」
 第 19 回シンポジウム『8 世紀の瓦づくりⅧ―一本づくり・一枚づくりの展開 2―』資料編 (西日本編)
 奈良文化財研究所古代瓦研究会事務局 31.02.02 発行

文化財建造物関係

寺本 就一 「平成 30 年度文化財建造物保存事業技術者養成教育第 4 回」(公財)文化財建造物保存技術協会
 30.07.27 於：根来寺
 下津健太郎・大給 友樹 「旧西村家住宅修理現場見学会」解説 新宮市教育委員会
 30.09.01 於：旧西村家住宅
 結城 啓司 「文化財建造物の修復」平成 30 年度和歌山県ヘリテージマネージャー講習会
 30.09.08 於：和歌山県建築士会館
 結城 啓司 「旧名手本陣妹背家住宅修理現場見学会」解説 NPO 法人亀山文化資産研究会
 30.09.09 於：旧名手本陣妹背家住宅
 下津健太郎・大給 友樹 「和歌山県文化財審議委員現地研修会」
 30.10.16 於：旧西村家住宅
 松井美香・下津健太郎 「瓦のはなし」有田市郷土資料館特別展記念講座 有田市教育委員会
 30.10.27 於：有田市郷土資料館
 下津健太郎 「新宮市観光ガイドの会勉強会」
 31.02.27 於：旧チャップマン邸・旧西村家住宅
 下津健太郎 「建造物の保存修理からみた近世瓦」全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック埋蔵文化財研修会
 30.11.16 於：和歌山市勤労者総合センター
 下津健太郎 「旧西村家住宅主屋の保存修理工事 - 主屋の変遷にみる伊作氏の思い -」『建築史学第 71 号』 30.09 発行
 下津健太郎 「重要文化財那智山青岸渡寺本堂-近代におけるこけら葺仕様の変遷について-」『文建協通信134号』 30.10 発行
 下津健太郎・大給 友樹 「重要文化財旧西村家住宅主屋ほか二棟-工事の進捗と内壁の仕様について-」『文建協通信134号』 30.10 発行

IV 刊行図書・出版物等

年報

『公益財団法人和歌山県文化財センター年報 2017』 30.05.31 発行

埋蔵文化財課関係

調査報告書

『吉礼Ⅲ遺跡―和歌山橋本線道路改良工事に伴う発掘調査報告書―』	30.09.30 発行
『東城跡、川辺遺跡―都市計画道路西脇山口線道路建設事業に伴う発掘調査報告書―』	31.03.26 発行
『藤並地区遺跡―一般国道42号（湯浅御坊道路）4車線化事業に伴う発掘調査報告書―』	31.03.29 発行

現地説明会資料

「吉礼Ⅲ遺跡発掘調査」現地説明会資料	30.04.28 発行
「新宮城下町遺跡第2次発掘調査」現地説明会資料	30.08.04、12.15、31.03.02 発行
「和歌山城跡発掘調査」現地説明会資料	30.09.22 発行
「新宮城下町遺跡第2次発掘調査子ども遺跡探検」現地説明会資料	30.12.15 発行
「和田岩坪遺跡」現地公開資料	31.02.02 発行
「田屋遺跡第3次発掘調査」現地公開資料	31.02.23 発行

報告会・シンポジウム資料等

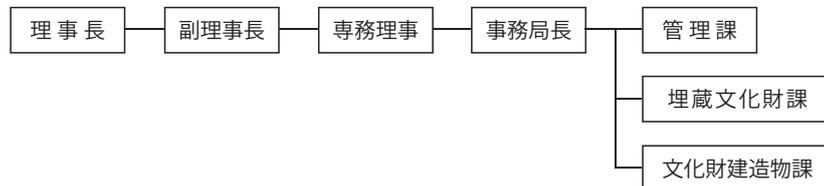
『和歌山県内埋蔵文化財調査成果展 紀州のあゆみ』展示リーフレット	30.06.02 発行
『地宝のひびき―和歌山県内文化財調査報告会―』発表資料集	30.07.14 発行
『公開シンポジウム中世紀の国の武士団とその居館』発表資料集	31.02.23 発行
『かつらぎ町 窪・萩原遺跡 柿田荘で見つかった石積み堤防』和歌山県の文化財④パンフレット	31.03.29 発行

埋蔵文化財と文化財建造物のミニ情報誌（公財）和歌山県文化財センター通信『風車』

第83号 特集「東城跡の発掘調査」	30.06.30 発行
第84号 特集「旧西村家住宅の保存修理（3）」	30.09.30 発行
第85号 特集「新宮城下町遺跡の第2次発掘調査」	30.12.31 発行

V 組織

組織図



役員（理事）

理事長	櫻井 敏雄	元近畿大学 教授
副理事長	宮下 和己	和歌山県教育委員会 教育長
専務理事	井上 雅幸	元和歌山県参事
理事	逸木 盛俊	宗教法人粉河寺 代表役員
理事	小野 健吉	和歌山大学 教授
理事	工楽 善通	大阪府立狭山池博物館 館長
理事	鈴木 嘉吉	元奈良国立文化財研究所 所長
理事	中村 浩道	和歌山県立紀伊風土記の丘 館長
理事	中村 貞史	元大阪経済大学非常勤講師
理事	林 宏	元一般社団法人和歌山県文化財研究会会長

役員（監事）

監事	風神 正典	税理士・風神会計事務所 代表社員
監事	木皮 享	和歌山県教育庁 生涯学習局長

評議員

井藤 徹	日本民家集落博物館 館長
岡本 邦敬	和歌山県立博物館 副館長
小野 俊成	宗教法人道成寺 院代
加藤 容子	元和歌山県教育委員
栗生 好人	和歌山県教育庁 文化遺産課長

佐々木公平	宗教法人広八幡神社 代表役員	
千森 督子	和歌山信愛女子短期大学 教授	
南 正人	和歌山県立紀伊風土記の丘 副館長	
山陰加春夫	高野山大学 名誉教授	
和田 晴吾	兵庫県立考古博物館 館長	
職員		
事務局長	井上 孝宏	
参 与	寺本 就一 (文化財建造物課課長事務取扱)	
管 理 課		
主 任	松尾 克人	
主 査	出口 由香子	
副 主 査	中野 一三	
埋蔵文化財課		
課 長	丹野 拓	
副 主 査	金澤 舞	
副 主 査	村田 弘	
副 主 査	佐伯 和也	
副 主 査	土井 孝之	
技 師	川崎 雅史	
技 師	森田 真由香	
専門調査員	小林 充貴	
文化財建造物課		
課 長	多井 忠嗣	(自己啓発休業)
副 主 査	下津 健太郎	
副 主 査	結城 啓司	
技 師	大給 友樹	
技術補佐員	松井 美香	

表紙図案

表紙右上	和歌山城跡出土の安藤家家紋瓦
表紙下	名手役所主屋正面図
表紙裏	名手役所離れ・蔵正面図

公益財団法人
和歌山県文化財センター年報
2018

2019年5月31日

【発行】

公益財団法人 和歌山県文化財センター
〒640-8301 和歌山市岩橋 1263 番地の1
TEL 073-472-3710
FAX 073-474-2270
<http://www.wabunse.or.jp/>
E-mail kanri-2@wabunse.or.jp

【印刷】

株式会社 協和

(公財) 和歌山県文化財センター
<http://www.wabunse.or.jp>

